

様式3

令和4年度 教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価1-1】専任教員の配置状況 【令和4年4月1日 現在】

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常勤 教員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考	
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	助手				
						うち理学療法士又 は作業療法士数					
理学療法学科						6 人	7 人		34 人	17.1 人	120人
作業療法学科						6 人	7 人		27 人	14.1 人	99人
計						12 人	14 人		61 人	15.6 人	219人

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

理学療法学科

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	倫理学	15	土屋盛茂	兼任
		数学	15	藤田和憲	兼任
		物理学	15	林俊夫	兼任
		情報科学	15	梅木桂子	兼任
		英語	15	竹中龍範	兼任
		医学英語	15	清川敏郎	兼任
		コミュニケーション論	15	山本茂喜 他	兼任
		社会福祉論	15	川田行雄	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能及び 心身の発達	解剖生理学Ⅰ	45	竹内義喜	兼任
		解剖生理学Ⅱ	45	板野俊文	兼任
		解剖生理学実習	30	穴吹泰典 他	専任
		運動学Ⅰ	15	中山直樹	専任
		運動学Ⅱ	15	中山直樹	専任
		運動生理学実習	15	住谷和則	兼任
		人間発達学	15	穴吹泰典	専任
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	15	水津太	兼任
		臨床医学Ⅰ	30	桜木章司・網千代美	兼任
		臨床医学Ⅱ	30	乗松尋道	兼任
		臨床医学Ⅲ	30	猪尾昌之・池内優仁	兼任
		臨床医学Ⅳ	30	菅田峻光・国重誠	兼任
		臨床医学Ⅴ	15	平峯千春	兼任
		臨床医学Ⅵ	30	喜井達夫・津村哲司	兼任
		リハビリテーション医学	15	逢坂幸佳	専任
		リハビリテーション概論	15	高橋謙一	専任
	保健医療福祉とリハビリ テーション	保健医療福祉とリハビリテーション	15	中山直樹	専任
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	15	清川敏郎	専任
		基礎研究方法論	15	藤沢千春	専任
		基礎理学療法学Ⅰ	15	藤沢千春	専任
		基礎理学療法学Ⅱ	15	穴吹泰典	専任
		症例検討Ⅰ	7.5	中山直樹 他	専任
		症例検討Ⅱ	7.5	藤沢千春 他	専任
		理学療法セミナーⅠ	30	中山直樹	専任
		理学療法セミナーⅡ	60	藤沢千春	専任
		臨床研究	45	藤沢千春 他	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	逢坂幸佳 他	専任
	理学療法評価学	関節可動域検査法	15	逢坂幸佳	専任
		徒手筋力検査法	15	高橋謙一	専任

	理学療法評価学	基礎評価法	15	高橋謙一	専任
		評価学実習Ⅰ	15	穴吹泰典 他	専任
		評価学実習Ⅱ	15	高橋謙一	専任
		理学療法評価法	15	高橋謙一	専任
		理学療法評価学演習	15	中山直樹 他	専任
	理学療法治療学	物理療法学	15	伊藤義広	兼任
		物理療法学実習	15	伊藤義広	兼任
		義肢装具学	15	大西徹也	兼任
		運動療法Ⅰ	15	清川敏郎	兼任
			15	中山直樹	専任
		運動療法Ⅱ	15	藤沢千春	専任
			15	逢坂幸佳	専任
		運動療法Ⅲ	15	中山直樹	専任
			15	十川秀樹 他	兼任
		運動療法Ⅳ	15	穴吹泰典	専任
			15	清川敏郎	兼任
		運動療法Ⅴ	15	逢坂幸佳	専任
			15	田村典子	専任
		運動療法演習Ⅰ	30	穴吹泰典 他	専任
		運動療法演習Ⅱ	15	中山直樹 他	専任
		日常生活活動	15	田村典子	専任
		日常生活活動実習	15	田村典子 他	専任
		理学療法技術論Ⅰ	15	清川敏郎	兼任
		理学療法技術論Ⅱ	15	鹿倉二郎 他	兼任
	地域理学療法学	住環境学	15	田村典子 他	専任
		地域リハビリテーション	15	逢坂幸佳	専任
	臨床実習	早期体験実習	22.5	実習指導者	兼任
		地域リハビリテーション実習	22.5	実習指導者	兼任
		評価実習	67.5	実習指導者	兼任
		臨床実習Ⅰ	135	実習指導者	兼任
		臨床実習Ⅱ	180	実習指導者	兼任
		臨床実習Ⅲ	180	実習指導者	兼任
	専門関連分野	レクリエーションⅠ	15	藤沢千春 他	専任
		レクリエーションⅡ	15	藤沢千春 他	専任
		基礎研究活動Ⅰ	15	藤沢千春 他	専任
		基礎研究活動Ⅱ	15	藤沢千春 他	専任

作業療法学科

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	倫理学	15	土屋盛茂	兼任
		数学	15	藤田和憲	兼任
		物理学	15	林俊夫	兼任
		情報科学	15	梅木桂子	兼任
		英語	15	竹中龍範	兼任
		医学英語	15	宮崎刀一	兼任
		コミュニケーション論	15	山本茂喜 他	兼任
		社会福祉論	15	川田行雄	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能及び 心身の発達	病理学	15	水津 太	兼任
		解剖生理学Ⅰ	45	竹内義喜	兼任
		解剖生理学Ⅱ	45	板野俊文	兼任
		解剖生理学実習	30	西井優子 他	専任
		運動学	30	青木みゆき	専任
		運動学演習	15	青木みゆき 他	専任
		運動生理学	15	宮本賢作	兼任
		人間発達学	15	西井優子	専任
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	臨床医学Ⅰ	30	桜木章司・網千代美	兼任
		臨床医学Ⅱ	30	乗松尋道	兼任
		臨床医学Ⅲ	30	猪尾昌之・池内優仁	兼任
		臨床医学Ⅳ	30	菅田峻光・国重誠	兼任
		臨床医学Ⅴ	15	平峯千春	兼任
		臨床医学Ⅵ	30	喜井達夫・津村哲司	兼任
		リハビリテーション医学	15	松本嘉次郎 他	専任
		精神医学各論	15	桜木章司	兼任
	保健医療福祉とリハビリ テーション	リハビリテーション概論	15	磯谷晃一	専任
		保健医療福祉とリハビリテーション	15	長尾亜紀子 他	専任
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	15	西川 洋	専任
		基礎研究方法論	15	磯谷晃一 他	専任
		基礎作業療法学実習Ⅰ	15	中野昌万	兼任
		基礎作業療法学実習Ⅱ	15	齋藤敏子	兼任
		基礎作業療法学実習Ⅲ	15	西井優子 他	専任
		基礎作業療法学実習Ⅳ	15	長尾亜紀子	専任
		作業療法セミナーⅠ	30	長尾亜紀子	専任
		作業療法セミナーⅡ	60	磯谷晃一	専任
		臨床研究	45	磯谷晃一 他	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	15	青木みゆき	専任
	作業療法評価学	基礎評価法	15	磯谷晃一	専任
		関節可動域検査法	15	磯谷晃一	専任

	作業療法評価学	徒手筋力検査法	15	山川公彦	専任
		評価学実習Ⅰ	15	西川洋 他	専任
		評価学実習Ⅱ	15	磯谷晃一 他	専任
		作業療法評価学Ⅰ	15	松本嘉次郎	専任
		作業療法評価学Ⅱ	15	前田悠志	兼任
	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅰ	30	青木みゆき・磯谷晃一	専任
		作業療法治療学Ⅱ	15	小野泉	兼任
			15	西井優子	専任
		作業療法治療学Ⅲ	30	西井優子・長尾亜紀子	専任
		作業療法治療学Ⅳ	30	磯谷晃一・松本嘉次郎	専任
		作業療法治療学Ⅴ	15	西川 洋	専任
			15	河野 誠	兼任
		作業療法治療学演習	30	松本嘉次郎 他	専任
		日常生活活動	30	青木みゆき	専任
		日常生活活動実習	15	青木みゆき 他	専任
		作業療法技術論Ⅰ	15	長尾亜紀子	専任
		作業療法技術論Ⅱ	15	西井優子	専任
		作業療法技術論Ⅲ	15	長尾亜紀子	専任
		応用作業演習	15	長尾亜紀子	専任
	地域作業療法学	住環境学	15	山川公彦	専任
		地域作業療法学	15	磯谷晃一	専任
	臨床実習	早期体験実習	22.5	実習指導者	兼任
		地域体験実習	22.5	実習指導者	兼任
		評価実習	67.5	実習指導者	兼任
		臨床実習Ⅰ	135	実習指導者	兼任
		臨床実習Ⅱ	180	実習指導者	兼任
		臨床実習Ⅲ	180	実習指導者	兼任
	専門関連分野	レクリエーションⅠ	15	磯谷晃一 他	専任
		レクリエーションⅡ	15	磯谷晃一 他	専任
		基礎研究活動Ⅰ	15	磯谷晃一 他	専任
		基礎研究活動Ⅱ	15	磯谷晃一 他	専任

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

理学療法学科

臨床実習の見学又は実践する 範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
早期体験実習	2年前期	コミュニケーション論 リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 基礎評価法 評価学実習Ⅰ 日常生活活動	1年次前期 1年次後期 1年次後期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次前期
地域リハビリテーション実習	3年後期	保健医療福祉とリハビリテーション 地域リハビリテーション	3年次前期 3年次前期
身体障害領域の評価実践 (評価実習)	3年後期	リハビリテーション医学 リハビリテーション概論 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 基礎評価法 理学療法評価学 評価学実習Ⅰ 評価学実習Ⅱ 日常生活活動 日常生活活動演習	1年次後期 1年次前期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 2年次前期 2年次後期
高齢者領域の評価実践 (評価実習)	3年後期	リハビリテーション医学 リハビリテーション概論 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 基礎評価法 理学療法評価学 評価学実習Ⅰ 評価学実習Ⅱ 日常生活活動 日常生活活動演習 保健医療福祉とリハビリテーション 地域リハビリテーション	1年次後期 1年次前期 1年次後期 1年次後期 2年次前期 3年次前期 2年次前期 2年次後期 2年次前期 2年次後期 3年次前期 3年次前期

身体障害領域の評価実践 (臨床実習Ⅰ)	3 年後期	リハビリテーション医学 リハビリテーション概論 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 基礎評価法 理学療法評価学 評価学実習Ⅰ 評価学実習Ⅱ 日常生活活動 日常生活活動演習	1年次後期 1年次前期 1年次後期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 2年次前期 2年次後期
身体障害領域の治療実践 (臨床実習Ⅱ・Ⅲ)	4年前期	リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 基礎評価法 基礎理学療法学Ⅰ 評価学実習Ⅰ 日常生活活動 日常生活活動演習 運動療法Ⅰ 運動療法Ⅱ 運動療法Ⅲ 運動療法Ⅳ 運動療法Ⅴ 評価学実習Ⅱ 運動療法演習Ⅰ 運動療法演習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域リハビリテーション 理学療法技術論Ⅰ 理学療法技術論Ⅱ	1年次後期 1年次後期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 2年次通年 2年次通年 2年次通年 2年次通年 2年次通年 2年次後期 3年次前期 3年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期
高齢者領域の治療実践 (臨床実習Ⅱ・Ⅲ)	4年前期	リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 基礎評価法 評価学実習Ⅰ 日常生活活動 日常生活活動演習 運動療法Ⅰ 運動療法Ⅱ 運動療法Ⅲ 運動療法Ⅳ 運動療法Ⅴ 評価学実習Ⅱ 運動療法演習Ⅰ	1年次後期 1年次後期 1年次前期 2年次前期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 2年次通年 2年次通年 2年次通年 2年次通年 2年次通年 2年次後期 3年次前期

高齢者領域の治療実践 (臨床実習Ⅱ・Ⅲ)	4年前期	運動療法演習Ⅱ	3年次後期
		保健医療福祉とリハビリテーション	3年次前期
		地域リハビリテーション	3年次前期
		理学療法技術論Ⅰ	3年次前期
		理学療法技術論Ⅱ	3年次前期
小児(発達障害)領域の治療実践 (臨床実習Ⅱ・Ⅲ)	4年前期	リハビリテーション医学	1年次後期
		関節可動域検査法	1年次後期
		徒手筋力検査法	1年次前期
		基礎評価法	2年次前期
		評価学実習Ⅰ	2年次前期
		日常生活活動	2年次前期
		日常生活活動演習	2年次後期
		運動療法Ⅰ	2年次通年
		運動療法Ⅱ	2年次通年
		運動療法Ⅲ	2年次通年
		運動療法Ⅳ	2年次通年
		運動療法Ⅴ	2年次通年
		評価学実習Ⅱ	2年次後期
		運動療法演習Ⅰ	3年次前期
		運動療法演習Ⅱ	3年次後期
		保健医療福祉とリハビリテーション	3年次前期
		地域リハビリテーション	3年次前期
		理学療法技術論Ⅰ	3年次前期
		理学療法技術論Ⅱ	3年次前期

作業療法学科

臨床実習の見学又は実践する 範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
早期体験実習	2年前期	コミュニケーション論 作業療法概論 リハビリテーション概論 リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 基礎評価法 評価学実習Ⅰ 日常生活活動	1年次前期 1年次前期 1年次前期 1年次後期 1年次後期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次前期
地域体験実習	3年後期	保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学	3年次前期 3年次前期
身体障害領域の評価実践 (評価実習)	3 年後期	リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 病理学 臨床医学Ⅵ 基礎作業学実習Ⅳ 基礎評価法 作業療法評価学Ⅰ 評価学実習Ⅰ 日常生活活動 日常生活活動演習 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学 住環境学	1年次後期 1年次後期 1年次後期 1年次後期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 2年次通年 2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 3年次前期
精神障害領域の評価実践 (評価実習)	3 年後期	臨床医学Ⅰ リハビリテーション医学 精神医学各論 作業療法評価学Ⅱ 日常生活活動 日常生活活動演習 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学 レクリエーションⅠ・Ⅱ	1年次後期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次通年 2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 1年次後期・2年次後期
高齢者領域の評価実践 (評価実習)	3 年後期	社会福祉論 リハビリテーション概論 リハビリテーション医学 関節可動域検査法	1年次前期 1年次前期 1年次後期 1年次後期

高齢者領域の評価実践 (評価実習)	3 年後期	徒手筋力検査法 基礎作業学実習Ⅳ 日常生活活動 日常生活活動演習 基礎評価法 作業療法評価学Ⅰ 評価学実習Ⅰ 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学 レクリエーションⅠ・Ⅱ	1年次後期 2年次前期 2年次通年 2年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 1年次後期・2年次後期
小児(発達障害)領域の評価実践(評価実習)	3 年後期	リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 人間発達学 日常生活活動 日常生活活動演習 基礎評価法 作業療法評価学Ⅰ 評価学実習Ⅰ 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学	1年次後期 1年次後期 1年次後期 1年次後期 2年次通年 2年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期
身体障害領域の評価実践 (臨床実習Ⅰ)	3 年後期	リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 基礎評価法 作業療法評価学Ⅰ 評価学実習Ⅰ 日常生活活動 日常生活活動演習 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学 住環境学	1年次後期 1年次後期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 2年次通年 2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 3年次前期

精神障害領域の評価実践 (臨床実習Ⅰ)	3 年後期	リハビリテーション医学 精神医学各論 作業療法評価学Ⅱ 日常生活活動 日常生活活動演習 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学 臨床医学Ⅵ レクリエーションⅠ・Ⅱ	1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次通年 2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 1年次後期・2年次後期
高齢者領域の評価実践 (臨床実習Ⅰ)	3 年後期	リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 日常生活活動 日常生活活動演習 基礎評価法 作業療法評価学Ⅰ 評価学実習Ⅰ 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学 レクリエーションⅠ・Ⅱ	1年次後期 1年次後期 1年次後期 2年次通年 2年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 1年次後期・2年次後期
小児(発達障害)領域の評価実践(臨床実習Ⅰ)	3 年後期	リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 人間発達学 日常生活活動 日常生活活動演習 基礎評価法 作業療法評価学Ⅰ 評価学実習Ⅰ 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学	1年次後期 1年次後期 1年次後期 1年次後期 2年次通年 2年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期
身体障害領域の治療実践 (臨床実習Ⅱ・Ⅲ)	4年前期	リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 基礎評価法 作業療法評価学Ⅰ 評価学実習Ⅰ 日常生活活動 日常生活活動演習 評価学実習Ⅱ	1年次後期 1年次後期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 2年次通年 2年次後期 3年次前期

身体障害領域の治療実践 (臨床実習Ⅱ・Ⅲ)	4年前期	保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学 住環境学 早期体験実習 評価実習 作業療法治療学Ⅰ 作業療法治療学Ⅱ 作業療法治療学Ⅲ 作業療法治療学Ⅳ 作業療法治療学演習 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学 作業療法技術論Ⅰ 作業療法技術論Ⅱ 作業療法技術論Ⅲ	3年次前期 3年次前期 3年次前期 2年次前期 3年次後期 2年次前期 2年次後期 2年次後期 2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 3年次前期
精神障害領域の治療実践 (臨床実習Ⅱ・Ⅲ)	4年前期	臨床医学Ⅰ リハビリテーション医学 精神医学各論 作業療法評価学Ⅱ 日常生活活動 日常生活活動演習 レクリエーションⅠ・Ⅱ 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション 地域作業療法学 作業療法治療学Ⅴ 作業療法治療学演習	1年次後期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次通年 2年次後期 1年次後期・2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期 2年次後期 3年次前期
高齢者領域の治療実践 (臨床実習Ⅱ・Ⅲ)	4年前期	リハビリテーション医学 関節可動域検査法 徒手筋力検査法 基礎評価法 作業療法評価学Ⅰ 評価学実習Ⅰ 日常生活活動 日常生活活動演習 作業療法治療学Ⅰ 作業療法治療学Ⅱ 作業療法治療学Ⅲ 作業療法治療学Ⅳ レクリエーションⅠ・Ⅱ 作業療法治療学演習 評価学実習Ⅱ 保健医療福祉とリハビリテーション	1年次後期 1年次後期 1年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 2年次通年 2年次後期 2年次前期 2年次後期 2年次後期 2年次後期 1年次後期・2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期

高齢者領域の治療実践 (臨床実習Ⅱ・Ⅲ)	4年前期	地域作業療法学 作業療法技術論Ⅰ 作業療法技術論Ⅱ 作業療法技術論Ⅲ	3年次前期 3年次前期 3年次前期 3年次前期
小児(発達障害)領域の治療実践 (臨床実習Ⅱ・Ⅲ)	4年前期	リハビリテーション医学 人間発達学 日常生活活動 日常生活活動演習 基礎評価法 基礎作業療法学演習Ⅳ 作業療法評価学Ⅰ 作業療法治療学Ⅲ 評価学実習Ⅰ 評価学実習Ⅱ 作業療法治療学演習 作業療法技術論Ⅲ	1年次後期 1年次後期 2年次通年 2年次後期 2年次前期 2年次前期 2年次前期 2年次後期 2年次後期 3年次前期 3年次前期 3年次前期

【自己評価3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会（令和4年度）
委員名(委員長)	笠井 勝代(副学校長)、委員長 大塚 陽子(副学校長) 襖田 和敏(鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科 学科長) 山本 幸男(柔道整復学科 学科長) 高橋 謙一(理学療法学科 学科長) 松本 嘉次郎(作業療法学科 学科長) 中江 秀美(看護学科 教務主任) 山下 久美子(看護学科 専任教員) 入江 和子(看護学科 専任教員) 六車 輝美(看護学科 学科長) 乗松 尋道(保健管理センター センター長) 樋元 栄作(附属 鍼灸治療院院長) 小森 元章(学校事務局長) 山下 博志(学校事務局 総務部長) 青木 みゆき(学校事務局 学務部長) 山川 公彦(学校事務局 入試・広報部長)
組織の開催頻度	年1回
組織の取り組み内容	自己点検・評価の基本方針、実施・結果の活用。相互評価・外部評価、自己点検・評価報告書を作成、公表。PDCAサイクルの検証等
自己点検・評価結果の公表	本校HPで公表(http://www.459.ac.jp)

自己点検・評価組織名	学校関係者評価委員会(令和4年度)
委員名(委員長)	谷川 俊博(宇多津町長)、委員長 佐藤 扶美子(香川県立丸亀城西高等学校 校長) 大平 徹(香川県立飯山高等学校 校長) 水兼 博士(香川県立琴平高等学校 校長) 則久 宗子(理学療法学科 学生保護者) 橋本 純 (鍼灸学科 卒業生) 島 かおり (看護学科 卒業生) 宮武 功哲(一般社団法人香川県鍼灸マッサージ師会 会長) 大塚 安混 (一般社団法人香川県鍼灸師会 理事) 神高 敏伸 (公益社団法人香川県柔道整復師会 副会長) 田岡 知代(一般社団法人香川県理学療法士会 理事) 五味 陽子 (一般社団法人香川県作業療法士会 名誉会長 監事) 安藤 幸代(公益社団法人香川県看護協会 会長) 山田 佳弘 (徳島県トレーナー協会 会長)
組織の開催頻度	年1回
組織の取り組み内容	教育活動、その他学校運営の状況に係る自己評価に対して、客観的な評価者としての保護者、地域住民、その他学校関係者に広く意見を求めることで、開かれた学校づくり、より良い学校づくりに取り組み、学校としての説明責任を果たすと共に、教育の向上を図る。
自己点検・評価結果の公表	本校HPで公表(http://www.459.ac.jp)

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会（令和4年度）
	委員構成等	学務部長、各学科主任、学務部・総務部から各1名
	改善の仕組みの実際	シラバス作成に関する研修会から情報収集をおこない、昨今の教育方針に合わせ改善をおこなっている。

理学療法学科・作業療法学科

該当する 仕組み	名称	教育課程編成委員会（令和4年度）
	委員構成等	森田 伸(香川大学医学部附属病院 院内副技師長) 田岡 知代(一般社団法人香川県理学療法士会 理事) 瀬間 義之(介護老人保健施設統桃源苑 副施設長) 五味 陽子(一般社団法人香川県作業療法士会 名誉会長 監事) 青木 みゆき(四国医療専門学校 学校事務局 学務部長) 高橋 謙一(四国医療専門学校 理学療法学科 学科長) 松本 嘉次郎(四国医療専門学校 作業療法学科 学科長) 山川 公彦(四国医療専門学校 学校事務局 入試・広報部長)
	改善の仕組みの実際	社会情勢の変化に対応すべく、実習先施設を中心とした企業等と定期的な打合せ・意見交換等「臨床実習指導者会議」を行い、連携を密に取り合う。社会的状況や変化、並びに実習時における学生の評価等を的確に把握し、最新の情報・要望を効果的に取り入れ、社会実情に合わせた教育課程編成を目指して、「教育課程編成委員会」を年2回行う。委員会で決議された事項については、本校に答申し教務委員会、学校運営会議・教員会議等で審議を行う。また、委員会での決議内容が、教育課程の変更に係る場合には、理事会において審議を行う。 ○理学療法学科 新カリキュラムの臨床実習(診療参加型実習形式)での実習評価について検討を行い、2回目の会議では、その運用実績の報告を行った後、評価項目、段階付け、日々の経験記録について再検討し修正した。 ○作業療法学科 新カリキュラムの臨床実習が令和4年度の評価実習、第1期臨床実習から開始するにあたり、臨床実習の評価表の見直しを実施し、委員より意見をいただき修正を加え4年生の臨床実習Ⅱ・Ⅲから用いた。また、メンタルヘルスマネジメントを実施していたが、能動的な学習につなげていくため、令和3年度よりクエストエディケーションを1年生に導入した。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価委員、学校関係者評価委員、教育課程編成委員会委員、臨床実習指導者会議での指導者からの意見、リハビリテーション教育評価機構の評価結果を踏まえ、学科長を中心に教育内容・教育環境等の見直しを行っている。

○理学療法学科

(1) 学校関係者評価結果から

①次年度の資格試験に向けての支援体制について

- 自習スペースを提供し、すぐに質問ができる環境整備
- 模擬試験の実施

②「働き方改革」に関し、時間外勤務について教員の教育負担軽減策について

- 学科改編委員会で協議し検討中

③各学科で標榜している資格以外で、補助的に取得できる資格について

- 福祉住環境コーディネーター2 級
- 初級障がい者スポーツ指導員
- 社会人基礎力検定（一般社団法人社会人基礎力検定協会）

○作業療法学科

(1) 学校関係者評価結果から

①次年度の資格試験に向けての支援体制について

- 聴講、月 1 回の集中講座及び模擬試験受験からの選択制。
- 県外者については、模擬試験問題を郵送し、実施。

②「働き方改革」に関し、時間外勤務について教員の教育負担軽減策について

- 学科改編委員会で協議し検討中

③各学科で標榜している資格以外で、補助的に取得できる資格について

- 福祉住環境コーディネーター2 級（東京商工会議所）
- 初級障がい者スポーツ指導員（公益財団法人日本パラスポーツ協会）
- ビジネス能力検定 3 級（一般財団法人職業教育・キャリア教育財団）